



2018年10月17日 「奥浅草だより」第14号

## 江戸文字

橘流寄席文字・江戸文字書家**橘右之吉**による江戸文字について、第3回燈虹塾では実演を交えた講演がありました。パソコンにおされて、文字というものを書かなくてもすむ時代に、大変興味深いテーマです。

文化が花開くということは世の中活気があるということで、江戸時代は総じてそういう時代でした。その発祥は吉原であり、江戸文化の発信地であると、燈虹塾の日比野孟俊代表は述べています。高位な遊女は、武士や大商家の旦那を対象とするゆえ高度な教養が求められました。琴棋書画茶花香を身につけ、本も読み絵もたしなんだのです。

江戸文字のもととなったのは手紙（消息）文の指南書で、寺子屋の教科書として使われた『商売往来』や『庭訓往来』ではないかと考えられています。

江戸文字といわれるおしゃれなデザイン文字もそこから育っていき、今日でもあちこちでみかけます。とりわけ外国人観光客にも大変人気があるようです。

バリエーションとしては寄席文字・芝居文字（勘亭流）・相撲文字・半纏文字・髭文字・籠文字・提灯文字などがあり、寄席や歌舞伎の看板、金貨大判の文字、大相撲の番付表、神社仏閣の干社札等にみられます。浅草の浅草寺雷門の大提灯の「**雷門**」は有名です。

~~~~~

この「奥浅草だより」は『奥浅草 地図から消えた吉原と山谷』の発行後、話題を拾って不定期に発行しております。サノックスのホームページでもご覧になれます。 <http://www.sanox.co.jp>

佐野陽子・江原晴郎・森下恒子